

西公民館

みんなで楽しもう！

カルタクラブ

西公民館では毎月第2土曜日の午前中に百人一首をするカルタクラブを開催しています。小・中学生を対象に毎回30名近くの子どもたちが集まっています。目を輝かせた子どもたちが、元気な笑顔で集まると、西公民館が活気づいてきます。地域の指導者（佐々木高雄さん（北黒田）、合田則康さん（宗意原）、池野京子さん（宗意原））の方ども子どもへの気持ちを含み取りながら、指導に力が入ります。それでは子どもたちの声を聞いてみましょう。

大好きなカルタクラブ

松前小学校 徳永亜利沙
はじめてカルタクラブに行った時、ちょっとしかとれなかったけれどラッキー賞が当たってうれしかったです。何回も行ってると覚えてきて、少しずつだけたくさんとれるようになりました。

次は優勝したいです。



▶◀真剣な面持ちで…



◀一瞬の間合いで決まる！



楽しいカルタクラブ

松前小学校 田中 絢

私は、友達に教えてもらってカルタクラブに参加し、それからカルタに興味を持ちました。カルタクラブはカップももらえるし、ラッキー賞ももらえるし、おじさんたちが優しく教えてくれて楽しいです。

私ははじめて行った時から中級でうれしかったです。今度は優勝して、友達みんなに言いたいです。

補導センターだより

あなたがわが子を断固叱るときは

松前町青少年補導センター所長 村上朋子

かつて、文部科学省が小学5年生と中学2年生を対象に子どもたちに自分の親のことをたずねる国際比較調査（韓国、アメリカ、イギリス、ドイツ、日本）を実施しています。その問いの一つに「『うそをつかないように』とよく諭す親」についてというものがあります。日本の子どもたちの回答は、よく諭す父親11%、母親16%でした。他の4か国の数値は、3〜5割で、大きな差がでていました。欧米では、子どものうちにこそ厳しくきちんと躾けをしなければいけないと考えていますし、中国には、「人間の本性は悪であるから、礼をもつてそれを正しくしなければいけない。」と説いた学者もいました。

日本は、「天からの授かりもの」という言葉があるように、子どもは大切に大事に育てられてきました。まして、今のように少子社会であれば、とぎとして過保護、甘やかし過ぎの子育てがなされていらないでしょうか。一点豪華主義ならぬ「一児豪華主義」という言葉も使われています。少子社会だからこそ、わが子が一人で生きていけるように、たくましく育てることが親の務めだと思えます。そのために、親が（大人が）しなければいけないことの一つが正しく叱ることではないでしょうか。そのことを通して、子どもたちに物事の道理を教え、わからせ、判断力や自立心を育てることが必要です。「大人は権威でしか叱れなくなつた。」とこのごろよく言われます。ある家庭では、わが子が次の状況・状態になったとき、断固叱っていると聞きました。

- ①そのままにしておいたら、自分や他人（動物なども）の生命を危険に陥れてしまうとき
 - ②他人に迷惑をかけるとき
 - ③相手の心を傷つけたとき
 - ④自分からした約束を勝手にやぶつたとき
 - ⑤やるべきことを怠けたとき
- あなたのご家庭では、どのようなときに「断固」叱つていらつしやいますか。